

端境期に対応する新品種、栽培技術の体系化

業務・加工用タマネギ、キャベツの開発



イメージ

輸入品に依存していた端境期への国産品の安定供給が可能に

端境期に収穫が可能なタマネギ「マルソー」、「オーロラ」と、省力・低コスト化が可能なタマネギ直播栽培技術を開発しました。東北地域ではこれら春まきタマネギの作付けが進み（令和元年 80 ha）、今後も拡大が見込まれます。

寒玉キャベツについても、供給が不足する4～5月どりの加工歩留まりが高い新品種「YR503」及び「NNS-C-91」を育成しました。新品種の種子は令和3年夏に販売開始予定で、今後の栽培が見込まれます。

業務用のタマネギ・キャベツが不足しやすい端境期に安定的に供給可能となることで、国産農産物の需要拡大が期待されます。



新規市場の獲得
国産品の需要拡大

研究代表機関

プロジェクト名

研究期間

農研機構

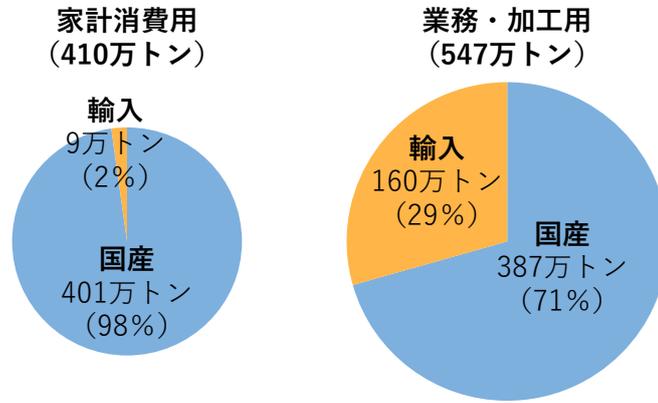
実需者等のニーズに応じた加工適性を持つ野菜品種等の開発

平成26年度
～30年度

〔共同研究機関：青森県、茨城県、富山県、カネコ種苗(株)、(株)明治機械製作所、(株)渡辺採種場 等〕

研究背景

野菜の業務・加工用需要の割合は全体の6割に達していますが、気候の影響を受けやすい露地野菜では、供給が不安定になる端境期がありました。端境期が生じやすい業務・加工用タマネギ、キャベツでは輸入への依存度が高く、実需ニーズに沿った国産品の安定供給が求められました。



国産および輸入野菜の用途別仕向け量 (2015年)

主要な成果

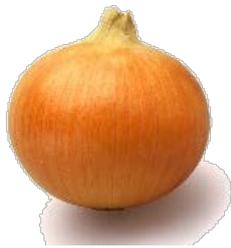
- 1
➡

タマネギの端境期（7～8月）に収穫できる新品種を育成。直播栽培における省力的減肥技術を体系化

東北地域の冷涼な気候を活用した**端境期出荷**、**水田の有効活用**が可能
- 2
➡

寒玉キャベツの端境期（4～5月）に収穫可能な新品種を育成、品種登録出願

芯や花芽の割合が少なく、**加工歩留まりが高い**という特徴を併せ持ち、普及に期待



端境期（7～8月）に収穫できるタマネギの新品種「マルソー」



端境期（4～5月）に収穫できるキャベツの新品種「YR503」



タマネギ直播におけるリン酸直下施肥技術の改良



4, 5月どり寒玉系キャベツ品種
芯や花芽の割合が小さく、加工歩留まりが高い